

# 四国旅行

## 1. はじめに

東栗栖小学校(兵庫県たつの市新宮町)の同窓会を兼ね、私が主催するYBI増益塾に7年連続受講会社のS社長から、『弊社の指導を兼ね四国にお越し願ひ、幹部社員に講演をして下さい。』と熱心に誘われていたので、同社(年商110億円のハウスメーカー)の計らいを受け、社長夫妻の案内で家内と四国旅行を行った。

帰路、家内の実家(姫路)と私の実家(たつの市新宮町千本)に立ち寄り、墓参りと仏壇に参拝した。同窓会の後、龍野高校時代の友達にも会い、半世紀前を思い出し、時間を忘れて童心に戻った。

## 2. スケジュール

11/16: 羽田空港→ANA533→高松空港→車→昼食事/長田うどん→車→善通寺→車→金毘羅参り→徒歩→旧金毘羅大芝居(金丸座)→車→琴平駅→JR→大歩危駅→バス→ホテルかずら橋泊。

11/17: ホテルかずら橋→ホテルの車→かずら橋→徒歩→琵琶の滝→ホテルの車→ホテルかずら橋→タクシー→大歩危駅→JR→丸亀駅→車→昼食事/綿谷→車→松山城→車→道後温泉→市電→会食/桃香花→タクシー→ホテル大和屋泊。

11/18: ホテル→車→砥部焼/炎の里→車→昼食事/萩の茶→車→M社新居浜支店/講演→車→高松駅→JR→岡山駅→新幹線→姫路駅。

11/19: 姫路駅→JR→千本駅実家のご先祖に参拝→車→同窓会場/志ぐう荘→車→龍野/高校時代の同級生→車→本竜野駅→JR→姫路駅。

11/20: 家内のご先祖に参拝→タクシー→姫路駅→新幹線→東京駅。

## 3. 善通寺

75番目の善通寺は、真言宗の開祖で四国霊場八十八を開いた空海の生誕である。案内人のS社長は、建物に関し建築家の立場からの説明であるから実に興味深い。同寺の5重の塔の耐震は、4本の柱が頂上まで届く木柱で支えられ、地震や台風の動きに合わせて動き、高層ビルの設計にも導入されている。



善通寺



5重の塔



善通寺の裏玄関

## 4. 金毘羅参り

「讃岐の金毘羅さん」として多くの参拝客で賑わう金刀比羅宮は、瀬戸内海国立公園像頭中腹にあり、重要文化財の宝庫である。石段は、786段あり竹杖でサポートしながら休憩しないで一挙に登った。



金毘羅さんの登り道



金刀比羅宮



金毘羅さんから琴平の町

金刀比羅宮の近くに、旧金毘羅大芝居/金丸座(国指定重要文化財)がある。舞台下手より直角に客席貫き、幅1.3mの花道が鳥屋に通じている。舞台中央には、大きな円形(直径7.3m)の回り舞台がある。天井は、竹で編んだ格子状の葡萄棚があり、ここから花吹雪を散らす。収容人員740名、延床面積1160㎡(内1F850㎡)で、天保6年(1835年)に建てられた現有する日本最古の芝居小屋で、毎年案内人夫妻は観覧されている。



旧金毘羅大芝居



客席



天井の葡萄棚

宿泊は、ホテルかずら橋(三ツ星ホテル)で泊まった。何と言っても祖谷の郷土料理は、地元で採れる山菜や野菜から料理されている。いたりととろろ芋、酢物の柿なます、手打蕎麦、甘味の田舎漬、ぼたん鍋、地元牛のステーキなど、今なお味をハッキリ覚えている。中でも、溪流魚のアマゴ(地元ではアメゴと呼ぶ)の刺身は絶品だった。料理の美味しさと沢山の量で、お腹一杯となり胃が受け付けてくれなくなり30%も残してしまった。

本館にある天涯剣之湯で身体を温め、ホテル独自で建設したケーブルカーで天空露天風呂にも足を延し、落入集落の夜景と夜空を眺めながらの入浴は格別だった。平家の隠れ湯だけに、湯量と湯質がいい。



ホテルかずら橋



天空温泉へのケーブルカー



湯上り処/半兵衛の家



露天風呂/樹海の湯



露天風呂/雲海の湯



露天風呂隣の足湯

## 5. かずら橋

急峻な山岳に囲まれ吉野川の支流祖谷川の断崖絶壁が続くこの地域は、平家の落人伝説で知られている。渓谷に架かる祖谷のかずら橋は、平家の落人が考案した吊り橋である。この橋は、野生のシラクチカズラで編み連ねて造った日本三大奇橋である。長さ45m×幅2m×中央水面高さ14mで構成され、高所恐怖症の私は横手摺(カズラ)を捕まえながら20分掛けて渡った。

この橋は、源氏が攻めて来ると平家が切り落とした説が有力であるが、弘法大使が集落民の交通便を考慮したとの説もある。



祖谷川の渓谷



かずら橋全景



怖々渡ったかずら橋

近くには、琵琶の滝、大歩危川下り、ラフティング、小便岩、剣山登山などがある。また、この地方は山の中腹に落合集落があり、国の重要伝統建物群保存地区に指定されている。昔は、農作物など人力で運んでいたが、現在は道路が整備され車運搬が可能になった。

散策中、目に留まったのは通常のもみじの葉の4~5倍もする大きなもみじの形(小さい緑のもみじが自宅庭の栂)をした落葉だ。ホテルの従業員、タクシーの運転手に確認したが、回答が無かった。多分、我が家の軽井沢の庭にあるノルウエーカエデの一種だと思うが、造園業者に手を回して取り寄せたいと考えている。



琵琶の滝



落合集落



大きなカエデ

また、私達ホテル愛好家は、池田高校の葛監督の知り合いから苔を取り寄せている。その苔が、この地方に沢山あり、ホテルの産卵時に適しているとワクワクしながら、触れてみると絨毯より柔らかく、感触が良く、持ち帰りたい気持になった。タクシーの運転手に確認すると、夏は毎日夕立があるとのこと。苔は、湿度を好むからソフトな苔に育っているのだろう。

## 6. 松山城

松山城は、慶長5年(1600年)関ヶ原の戦いで徳川側に従軍して20万石となった加藤嘉明が創設した。姫路城に並ぶ連立式天守を持ち、我が国最後の完全な城郭建築である。一般的に城の壁は白壁であるが、本城は焼板壁から構成されている。費用削減か工期短縮か平和を見越しての板壁であろうが、戦時火事攻めにされなかったか気になる所だ。丸亀駅から車で松山に向かったので、平地の丸亀城を見学した。

松山城の近くに、建築家安藤忠雄氏の雲の上のミュージアムや正岡子規記念館がある。



松山城全景



松山城から視る



平地の丸亀城

## 7. 道後温泉

道後温泉は、膝に傷を負って苦しんでいた1羽の白鷺が岩間から噴出する温泉を見つけ足を浸したところ、傷が治り元気に飛び去ったと伝えられている。効力は、疲労回復や病人の回復である。

宿泊は、三ツ星ホテルの大和屋本店であったが、同夜は案内人会社の幹部社員(役員)との会食で深夜迄騒いでいたことと雨天だったので、報告内容と写真が整っていない。

夕食の会場は、松山市内の「桃香花」だったので、ホテルから会場に市電を利用した。京都(学生時代)に居た頃、市電を良く利用していたので懐かしかった。市電の利用者は多いようだ。

翌朝 6:00 から道後温泉本館に入湯した。同館には、1Fに神の湯と霊の湯、2Fと3Fに寛ぐ席がある。本館の内容は、町のセントと同じである。湯は最高であったが、衛生面が気掛かりである。



大和屋本店



道後温泉本館



市電の車中

## 8. 砥部焼

砥部焼の歴史は、江戸時代(安永4年)大洲藩主加藤泰侯の命を受け、藩の財政を救うために磁器業に力を注いだ。白磁の温かな肌に、呉須絵の深い味わい、さりげない優しさと温もりを感じさせるその佇まいは、先人達の情熱が伝わってくる。

道後温泉から、車で40分程の「炎の里」/千山窯(砥部焼観光センター)を見学した。同センターでは、砥部焼の製造工程が見られ、2Fは絵付の体験が出来る。同じフロアに、中国墨絵の牛子華氏のアトリエが並列されていた。



炎の里/千山窯の店内



ろくろ職人



焼入窯

## 9. 講演

講演会場は、案内人社長会社の新居浜支店で、「増益のしかけ」を全社幹部社員約30名に1時間コードレスパワーポイントで説明をした。1人も居眠り者が居らず、活発且つ前向きな質問があり、気持ちよく話せた。

講演に先駆け、昼食は蕎麦が美味しい「萩の葉」だった。同店の中庭は、水をポンプUPして巡回させ小さな滝のせせらぎが心を癒してくれた。今、長野市の造園業者に和、洋、草花の中庭を標準化してカタログ販売を指導しており、この中庭は大いに参考になった。



講演中の筆者



受講風景



昼食事/萩の葉の中庭

## 10. 同窓会

昭和27年卒業の東栗栖小学校(兵庫県たつの市新宮町)の同窓会に出席した。72名卒業中(内物故者9名⇐この年齢からみると少ない)23名参加した。龍野高校10回生では、岩下利明君、上田加代子さん、伊藤智恵子



さん(旧姓高島)らが、元気な顔を見せていた。

遠路から出席した私に、乾杯の音頭を指名され『元気な皆さんに会えて嬉しい。後2、1回の同窓会で皆さんと会えるのを楽しみにしています』と挨拶をした。

会場は、国民宿舎「志んぐ荘」で、丁度19日からもみじ祭りが開催されていたが、未だ紅葉には30%程度しか進んでいなかった。雨天と重なり、見学者は殆ど居なかった。

「志んぐ荘」に通ずるアユで名高い揖保川に吊り橋が掛けられている。この吊り橋は観光客に人気あるが、17日観た「かずら橋」に比べると、鉄製ノロープであるから比較にならない。



国民宿舎志んぐ荘



東山公園



揖保川の吊り橋



同窓会風景

代表幹事の上田忠男君(郷土音頭の達人)は私の従兄弟に当たり、雨の中で川エビを約300匹捕ってくれた。このエビは、自宅庭のホタルを飼っている小川に放すためである。小川に放すと元気に泳いで姿が草むらに消えた。

## 11. その他

### (1) 龍野高校時代の友達に会う

同窓会の途中であったが、龍野高校10回生の友人に会うため参加者に挨拶して清水好信君に迎えに来てもらった。呉服店を営む有元友昭君を訪ねと神保照美さん、辻田晃江さんが出迎えてくれた。2時間余りしゃべりまくった。辻田さんが、私が帰郷すると何時も姫路駅地下でたこ焼きを食べていることを知っていて、『横林さん、たこ焼きは東口を出て左側に移動しています』と教えてくれた。行ってみると、持ち帰りは可能だが、食べる場所は無かった。焼き立てを食べてこそ美味しいのである。地下の完成が待ち遠しです。

### (2) 姫路城

姫路城も修理中で、お城全体がすっぽりテントをかぶさっていた。これまた姫路駅地下の完成よりも、多くのファンが待ち焦がれているでしょう。

### (3) 安価でボリュームある讃岐うどん

高松の「長田うどん」で、うどんを丸桶に1人3人分(3玉)入れて、S社長夫人に沢山刷り下ろしてもらったショウガとネギのぶっかけは醍醐味だった。

丸亀では、肉のぶっかけうどんを「綿谷」でご馳走になった。地元のサラリーマン、土木工事人、運転手ら行列を作っていた。言い換えると、大学の学生食堂と同じく、好みの食べ物をお客が取って、最後に会計をするセルフサービスの仕組みになっている。何れも、500円前後で格安である。



丸桶のぶっかけうどん/長田うどん



肉ぶっかけうどん/綿谷



行列の綿谷店内

### (4) 家内の買物

道後温泉で30分程時間があつたので、ホテル近くの商店街を探索していると、アンティーク好きの家内が骨董店を見つけ、讃岐彫のおぼん(材質は多分析と思う?)を5席購入した。

また、砥部焼で削り職人が見本にしていた白地に縦に小豆色と濃紺の線を出したペアの湯飲みが目にとまり、この製品を求めたが出来のいい製品(故に見本になっていた)のため購入出来なかった。同じデザインの湯飲みを倉庫から沢山出され、余り気に入らなかつたようだが2つ買い求めた。

同センターの周辺を探索していると、現在作家の砥部焼陶彩窯の長戸哲也氏作の3足付小鉢を2品購入した。家内と旅すると、思わぬ買物にドキドキ、ハラハラさせられる。

### (5) 案内人の社長夫人

3日間、私達の案内でS社長と同社長夫人がお供して下さった。その間、夫人のS社長への言葉使い、気配り、細やかな気付きに、私達は感激した。S社長もまた、夫人への優しさは、仕事一筋を見てきただけに、驚かせられた。私達2人も、大いにS社長と同社長夫人を見習うべき箇所多々気付かせられた。

時には、仲のいい友人夫妻と旅行するのも意義深いと、強く感じさせられた思い出ある四国旅行となった。

2011年11月22日 横林寛昉